

薬研

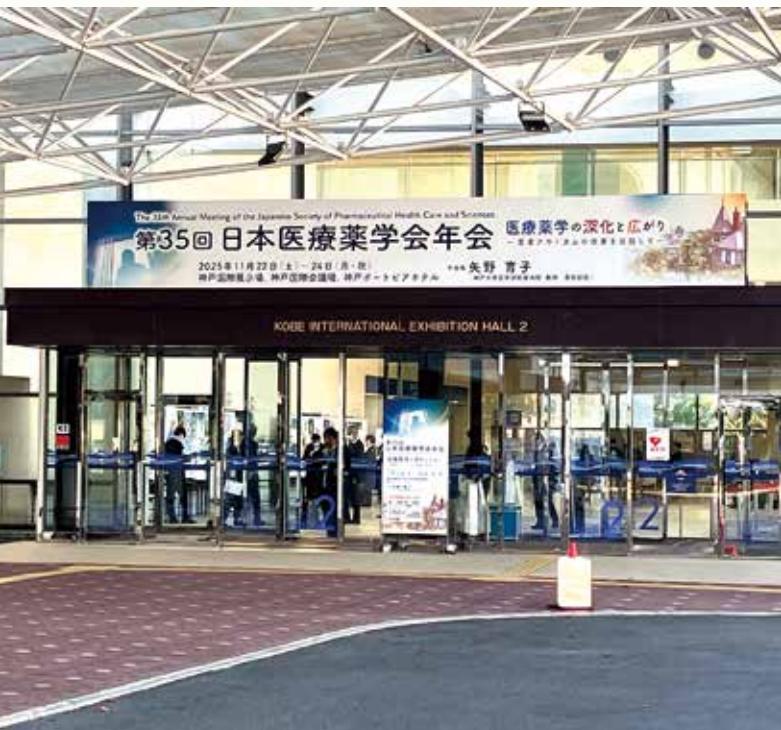
創薬と医療に貢献する

PHARMACEUTICAL EQUIPMENT & MACHINERY NEWS

薬科機器通信【やげん】

No.60

2026.1月号



新年のご挨拶

ファーマシングフォニーが奏でる未来
～やってみいひん?薬学イノベーション!～

日本薬学会第146年会薬科機器展示会によせて

日本薬学会第146年会組織委員長(日本薬学会副会頭、大阪大学教授) 小比賀 聰

新春スペシャル対談

武田 泰生(日本病院薬剤師会会长)

×

石井 伊都子(日本薬学会会頭)

これからの薬科機器展示会

- 日本薬学会第146年会【併催】
- 第47回日本病院薬剤師会近畿学術大会【付設】
- 第85回九州山口薬学大会【付設】
- 日本病院薬剤師会関東ブロック第56回学術大会【付設】
- 第59回日本薬剤師会学術大会【付設】
- 第65回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会【付設】
- 第36回日本医療薬学会年会【併催】



日本薬科機器協会

JAPAN PHARMACEUTICAL EQUIPMENT & MACHINERY ASSOCIATION



www.nyk.gr.jp

Your Partner in Medication

yuyama



「対人業務を支えたい」 それがYUYAMAの願いです

目指すのは、薬剤師の先生方が調製作業に関わる時間を

限りなくゼロに近づけつつ、

薬物療法の安全性と質の向上に貢献すること。

調剤機器の操作を安心してどなたかに任せられる仕組みを通じ、

対人業務に専念できるよう、新しいスタイルをご提案します。

それが、YUYAMAの目指す新調剤コンセプト

「zero for Pharmacist」。

調剤の未来を切り拓くことを信じて。



製造元
株式会社

湯山製作所

発売元
株式会社

Z Y M A

大阪本社 〒561-0841 大阪府豊中市名神口1丁目4番30号 TEL.(06)6868-5155(代)
東京本社 〒130-0012 東京都墨田区太平2丁目10番10号 TEL.(03)3829-9511(代)



CONTENTS

新年のご挨拶	1
日本薬科機器協会 会長 酒井 哲嗣	
ファーマシンフォニーが奏でる未来 ～やってみいひん?薬学イノベーション！～	2～3
日本薬学会第146年会薬科機器展示会によせて 日本薬学会第146年会組織委員長 小比賀 聰(日本薬学会副会頭、大阪大学教授)	
これからの薬科機器展示会	4～8
新春スペシャル対談	10～13
武田 泰生(日本病院薬剤師会会长) × 石井 伊都子(日本薬学会会頭)	
新製品情報	14～15
最近の話題	
河北総合病院を訪問しました	15
事業報告	16～18
第84回九州山口薬学会【付設】 第58回日本薬剤師会学術大会【付設】 第64回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会【付設】 第35回日本医療薬学会年会【併催】	
事務局報告	19
お知らせします/諸会議報告	
事務局日誌	20
編集後記	20

新年のご挨拶

新春のお慶びを申し上げます。会員の皆様、そして展示会にご参加くださる薬剤師の先生方におかれましては、健やかに新しい年を迎えたことと存じます。旧年中は本協会の活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。薬科機器を取り巻く環境は、研究・教育・臨床の現場において日々進化を続けております。私たち協会は、そうした変化を前向きに受け止め、会員の皆様と薬剤師の先生方が安心してご活躍いただけるよう、情報発信や交流の場づくりに努めてまいりました。昨年は展示会や研修事業を通じて、多くの先生方と直接お話しする機会をいただき、薬科機器の新しい可能性を共に考える貴重な時間となりました。

本年は、昨年設置いたしました「安全委員会」のさらなる推進、厚生労働省・厚労科研への協力、日本病院薬剤師会との連携、協力などにも注力してまいります。理事一同、そして協会全体が一丸となり、薬科機器業界の発展に寄与してまいる所存です。結びに、会員の皆様、薬剤師の先生方のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。

日本薬科機器協会
会長 酒井 哲嗣



ファーマシンフォニーが奏でる未来 ～やってみいひん？薬学イノベーション！～

日本薬学会第146年会薬科機器展示会によせて

はじめに

日本薬学会第146年会を、2026年3月26日(木)から29日(日)までの4日間、関西大学千里山キャンパス(大阪府吹田市)を主会場として開催いたします。

関西地区での開催は、第140年会(京都)が新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い開催中止となったことから、第135年会(神戸)以来、11年ぶりとなります。大阪大学薬学部を中心となり関西大学とともに組織委員会を設立し、運営を担当させていただきます。

日本薬学会年会は、日本の薬学関係者が一堂に会する最大規模の学術集会で、大学で教育・研究に携わる者、企業で医薬品の研究・開発に携わる者、病院や薬局で医薬品の適正使用を推進する者、行政の立場から医薬品の有効性・安全性の確保に努める者、さらに、将来の薬学および関連領域を担う大学院生・学部生など、8,000名近くの参加者が見込まれます。

薬学は、物理系、化学系、生物系、医療系、臨床系などの多様な学問の力を必要とする総合科学です。また、昨今の薬学をとりまく様々な課題を克服していくためには、従来の垣根を超えた異分野連携が一層重要となっています。幅広い学術領域の研究者が一堂に会し議論を深めることで、異分野連携が一段と進み、新たなイノベーション創出に繋がることを願い、今回の第146年会では「ファーマシンフォニーが奏でる未来～やってみいひん？薬学イノベーション！～」をテーマとして設定しました。

日本薬学会第146年会の概要

日本薬学会第146年会では、ノーベル賞受賞者の講演を含む特別講演16件(海外4件、国内12件予定)、シンポジウム約90件(理事会企画、組織委員会企画、一般、および大学院生シンポジウム)と一般学術発表(口頭、およびポスター発表)を行います。一般学術発表の演題登録は11月末に締め切りましたが、第146年会においては、約1,050題の一般口頭発表と約2,250題のポスター発表を受け付けました。シンポジウムでは、日本薬学会が企画する国際連携シンポジウムや、ダイバーシティーの取り組みに関するシンポジウム、他学会とのジョイントシンポジウムや年会組織委員会の企画シンポジウムなどが予定されています。医療現場の薬剤師の皆様にもご参加いただきやすいよう週末(土日)を含めた会期設定となっています。また、高校生を対象とした高校生サイエンスフェスタという新たな企画も行う予定です。3月

日本薬学会第146年会組織委員長
小比賀 聰
(日本薬学会副会頭、大阪大学教授)

29日(日)に関西大学ソシオAV大ホールにて開催される市民公開講座(無料)では、講師に中山直樹先生(環境省水・大気環境局海洋環境課海洋プラスチック汚染対策室室長)、鈴木剛先生(国立環境研究所資源循環領域資源循環基盤技術研究室室長)、高田秀重先生(東京農工大学名誉教授)をお招きし、「SDGsを感じ、考える ~マイクロプラスチック問題とは? その現状と今後~」のメインテーマのもと講演していただきます。市民を対象とした講演会を通じて地域住民の皆様に、環境問題について、改めて考えていただくきっかけとなることを期待しています。

薬科機器展示会とその会場

薬科機器展示会は、関西大学の第2学舎、第4学舎、および凜風館で実施いたします。これらはいずれも薬学会会場の中央に位置する利便性の高い場所であり、展示会場をポスター会場と併設するかたちで設置いたします。展示会場内ではドリンクの配布も予定されており、多くの参加者が展示会場を訪れるものと期待しています。

薬科機器展示会場では、薬科機器、新薬情報、文献情報システム、書籍等の展示などを予定しており、多くの研究者や薬剤師の皆さんに最先端の機器や新薬などに触れていただくとともに、新刊書籍や文献などの最新情報を収集していただけると思います。

結びにかえて

日本薬学会年会は、日本の薬学関係者が一堂に会する学術集会です。医薬品を取り巻く幅広い分野から多くの参加者が集結いたします。創薬研究においては最先端の分析・測定機器が必須であり、医療現場では最新の調剤・包装機器が必要とされます。そして、創薬・医療・薬学教育の全ての場において、最新の情報収集・解析システムが求められています。本年会が、参加者の皆様と機器展示にご協力いただきました企業の皆様にとりまして、有意義な場になることを切に願っております。



日本薬学会第146年会「病院薬剤師キャリアアップコーナー」について

第144年会併催展示会から続いております「リクルートコーナー」を「病院薬剤師キャリアアップコーナー」と名称を変えて設置することとしました。

日本薬学会年会の参加登録者の約4割が薬学部学生です。薬学部学生にとっては、キャリアパス形成に役立つ生の情報を収集できる絶好の機会となり、病院関係者には、薬剤師キャリアの出発点として病院薬剤師の重要性を訴え、その魅力や将来の薬剤師職能の在り方を説明できます。

今回も学生と病院の出会いの場、貴重な交流の場としてご活用いただけるものと期待しております。



(前回第145年会 学生コーナーの様子)

日本薬学会第146年会へ、ご参加を予定している学生の皆様へ

関西大学千里山キャンパスにて併催展示会が開催されます。展示会場内に「病院薬剤師キャリアアップコーナー」を設けます。ここでたくさんの病院様による説明会が開催されます。予約がなくても問題ありません。いつでも自由にお立ち寄りください。

また、展示会場では最新の機器を見る事ができます。学生の皆さまの見学も大歓迎です。詳しくは、参加者に配信される年会アプリ要旨集をご覧ください。日本薬科機器協会ホームページにも案内を掲載いたしますので、会場案内図および説明会スケジュールをご確認いただき、どうぞお気軽に会場にお越しください。皆様にお会い出来ることを楽しみにしております。

日本薬学会第146年会【併催】

第145年会出展社：124社（機器67社、医薬品2社、文献情報15社、書籍9社、リクルートコーナー31病院）

第145年会登録者数：7,865名

日 時 2026年3月26日(木)～29日(日)

開催形式 現地開催予定

会 場 関西大学 千里山キャンパス

住 所 〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

アクセス 阪急電鉄千里線「関大前駅」下車すぐ

組織委員長 小比賀 聰(大阪大学大学院)

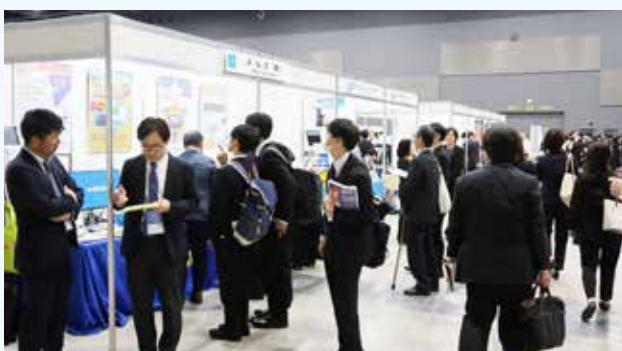
主な来場者 薬学系大学、製薬関連企業研究所・工場、国公私立研究機関、病院薬剤部、開業調剤薬局、卸等の日本薬学会会員



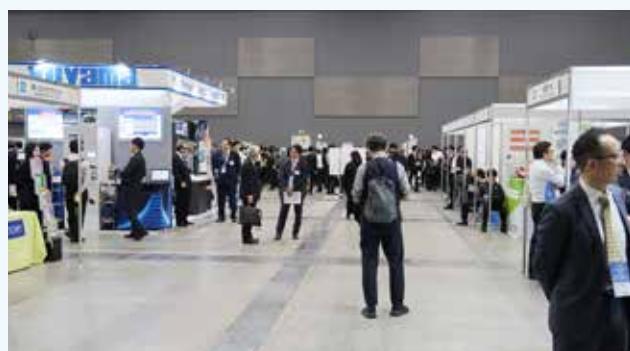
小比賀聰第146年会組織委員長(右から4人目)



岡田欣晃先生(左から2人目)、有澤光弘先生(左から3人目)と打合せ



前回年会会場の様子



前回年会会場の様子



関西大学 千里山キャンパス



関西大学 凛風館

第47回日本病院薬剤師会近畿学術大会【付設】

前回展示会出展社数：出展社数13社 31小間
前回登録者数 : 2,610名

日 時 2026年2月14日(土)～15日(日)

開催形式 現地開催予定

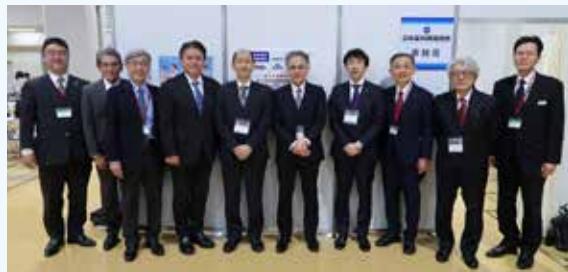
会 場 グランキューブ大阪

住 所 〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3-51

ア セ ッス 京阪電車中之島線「中之島(大阪国際会議場)駅」(2番出口)すぐ

大 会 会 長 竹上 学(一般社団法人大阪府病院薬剤師会会長)

主な来場者 病院勤務薬剤師



竹上会長(左から5人目) 前回大会会場にて



グランキューブ大阪

第85回九州山口薬学大会【付設】

前回展示会出展社数：出展社数13社 34小間
前回登録者数 : 2,075名

日 時 2026年7月19日(日)～20日(月・祝)

開催形式 現地開催予定

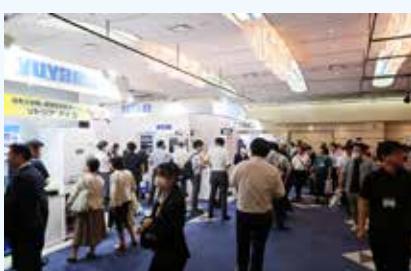
会 場 シーガイアコンベンションセンター

住 所 〒880-0836 宮崎県宮崎市山崎町

ア セ ッス 宮崎駅からシャトルバス

大 会 実 行 委 員 会 実 行 委 員 長 野邊 忠浩(宮崎県薬剤師会会長)

主な来場者 開局薬剤師、病院勤務薬剤師、薬学研究者



前回大会会場の様子



野邊忠浩大会実行委員長(右から2人目) 前回大会会場にて



シーガイアコンベンションセンター

日本病院薬剤師会関東ブロック第56回学術大会【付設】

前回展示会出展社数：出展社数18社 36小間
前回登録者数：2,028名

日 時 2026年8月22日(土)～23日(日)

開催形式 現地開催予定

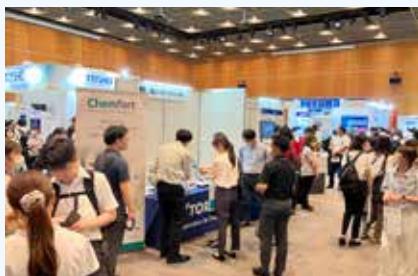
会 場 幕張メッセ

住 所 〒261-8550 千葉市美浜区中瀬2-1

ア クセス JR京葉線「海浜幕張駅」から徒歩約5分

大 会 長 飯塚 雄次(千葉県病院薬剤師会会長)

主な来場者 病院勤務薬剤師



前回大会会場の様子



飯塚雄次大会長(左から2人目) 前回大会会場にて



幕張メッセ 国際展示場展示ホール

第59回日本薬剤師会学術大会【付設】

前回展示会出展社数：出展社数22社 29小間+285m²
前回登録者数：8,439名

日 時 2026年10月11日(日)～12日(月・祝)

開催形式 現地開催予定

会 場 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

住 所 〒950-0078 新潟県新潟市中央区万代島6-1

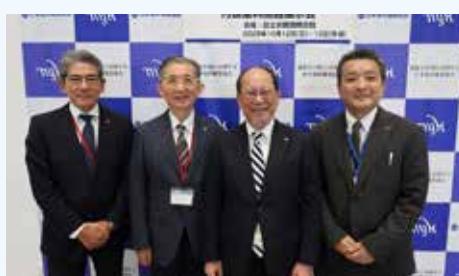
ア クセス 新潟駅から徒歩約20分 最寄バス停留所「朱鷺メッセ」

大 会 運 営 委 員 長 萩野 構一(新潟県薬剤師会会長)

主な来場者 開局薬剤師



前回大会会場の様子



萩野構一大会運営委員長(右から2人目) 前回大会会場にて



朱鷺メッセコンベンションセンター

第65回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会【付設】

前回展示会出展社数：出展社数10社 18小間

前回登録者数：941名

日 時 2026年11月7日(土)～8日(日)

開催形式 現地開催予定

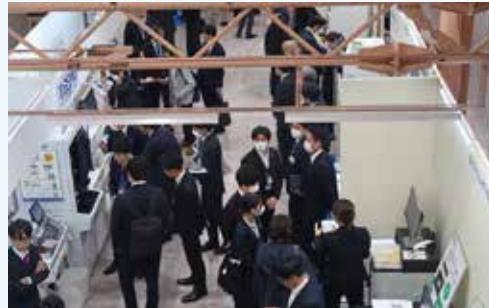
会 場 米子コンベンションセンター

住 所 〒683-0043 鳥取県米子市末広町294

ア クセス JR米子駅北口から徒歩5分

実行委員長 森田 俊博(鳥取県病院薬剤師会会长)

主な来場者 開局薬剤師、病院勤務薬剤師、薬学研究者



前回大会会場の様子



前回大会会場の様子



森田俊博実行委員長(写真中央) 前回大会会場にて



米子コンベンションセンター

第36回日本医療薬学会年会【併催】

前回展示会出展社数：出展社数19社 92小間

前回登録者数：約10,740名

日 時 2025年11月21日(土)～23日(月・祝)

開催形式 現地開催予定

会 場 ホテル金沢 他

住 所 〒920-0849 石川県金沢市堀川新町1番1号

ア クセス JR金沢駅東広場から徒歩で約1分

年会長 崔 吉道(金沢大学附属病院 教授・薬剤部長)

主な来場者 病院勤務薬剤師



崔吉道年会長(右から4番目) 前回大会会場にて



前回大会会場の様子

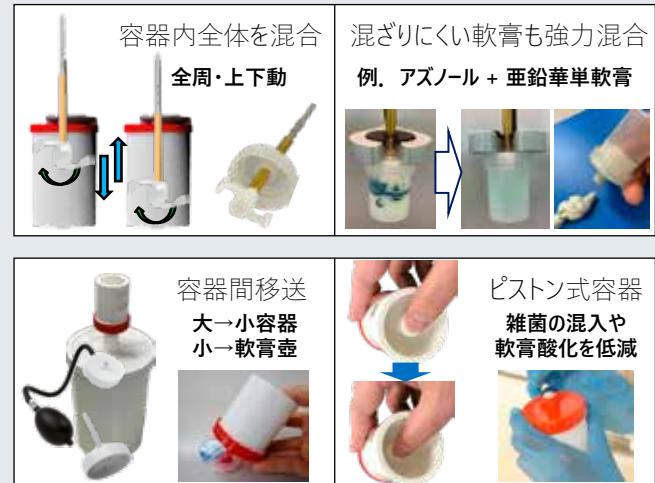


前回大会会場の様子(ワークショップ)

「軟膏混合はこれ1台で」

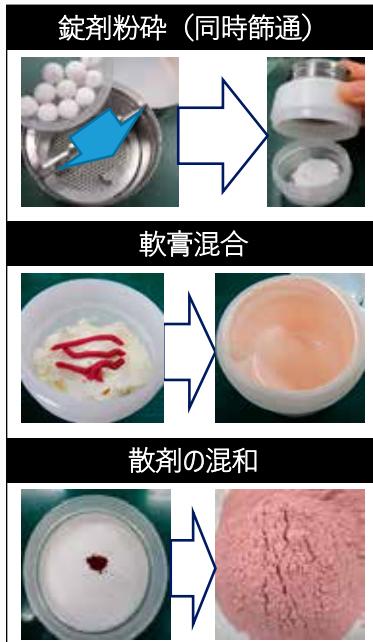
卓上型で 2000ml 対応

gako unguator
PRO



「調剤ニーズに幅広く対応できる1台」

基本機能



多機能調剤ミキサー

miksi

新アダプタシリーズ登場



御確認・お問い合わせは専用WEB & メールから



<https://www.miksi.jp>
sales@miksi.jp

株式会社ビートセンシング

〒411-0917 静岡県駿東郡清水町徳倉1072-1
TEL : 055-933-0007 FAX : 055-933-0010

B
Beat
Sensing co.,ltd

【日本薬科機器協会】

新春 スペシャル対談

会場

日本病院薬剤師会 会長室

現地サポート

松久事務局長(日本病院薬剤師会)、
東海林、飯塚(日本薬科機器協会事務局)

記事作成

上野(日本薬科機器協会広報委員)

ごあいさつ

酒井会長:日本薬科機器協会(以下協会)の酒井です。本日は日頃よりたいへんお世話になっている日本病院薬剤師会(以下日病薬)の武田泰生会長と、日本薬学会(以下薬学会)の石井伊都子会頭をお招きました。本対談は90分程度を予定し、いくつかの話題や論点を用意しておりますが、その後はお時間の許す限り和やかな雰囲気でご意見を交換させていただければ幸いです。

医薬業界の現状を教えてください

酒井会長:まずは、両先生に伺います。協会としても、現場の先生方がどのような課題に直面しているのかを深く理解したいと考えています。まずは武田先生から、病院薬剤師業務がどのように変化したか、そして、石井先生からは、薬学全般の学術的な変化・発展につ



参加者

日本病院薬剤師会会长
武田 泰生 先生

日本薬学会会頭
石井 伊都子 先生

進行

日本薬科機器協会会长
酒井 哲嗣

いてお聞かせいただけますか。

武田会長:まずはこのような対談の機会を作っていただきありがとうございます。酒井会長はじめ協会の皆様にお礼を申し上げます。そして、ご多用の中、石井会頭にもお越しいただきまして誠にありがとうございます。酒井会長からもお話しがありましたが、病院薬剤師業務はどのように変化したか、ですね。我々の業務は薬剤師法に定められているとおり、調剤業務を主としています。最近は病棟業務が中心です。昨年の診療報酬改定ではがん薬物療法体制充実加算が新設され、薬剤師が医師の診察前に服薬状況や效能・効果、副作用の状態を把握し医師に処方提案とともに報告することが評価され、まさに外来診察についても病院薬剤師はその職能を発揮してきているという状況にあります。調剤業務、病棟業務、外来に薬剤師業務は拡大しています。

日病薬の会長に就任して、3つの柱を取り組みの中心に据えました。資質の向上、機能拡大、薬剤師確保です。私が考えるに、その時々に求められている病院薬剤師の職能やどんな業務展開が必要なのかということは、医療の進展とともに、求められるものがどんどん変わってきました。それに対して、日病薬はプロフェッショナルの集団として薬物治療管理を進めていくうえで、どんどん業務を拡大してきました。そのために資質を高める取り組みも展開しました。

何も私が申し上げた3つの柱が特別というわけではなく、やはり歴代の日病薬の会長、役員、スタッフの皆様が取り組んできたことが今につながってきています。日病薬としては、これから先どのような医療提供体制が構築され、その中で病院薬剤師がどう業務を展開していくか考えていくことになります。従来は調剤業務が中心でしたが、まずは1988年に入院患者さんを対象にした病棟業務が服薬指導業務としてスタートしました。

酒井会長:いわゆる100点業務ですね。

武田会長:そして2012年には病棟薬剤業務実施加算が新設されました。薬剤管理から薬物治療管理、その管理を通して、医療の質の向上、さらには医師の負担軽減、他職種の負担軽減につながっており、チーム医療の一員としての役割が確立されてきました。ただ、同加算を算定している施設は2025年8月時点のデータでは26.2%でした。ようやく1/4に達しました。一方で、回復期リハビリテーション病棟(回りハ)や地域包括ケア病棟(地ケア)などは包括になっているので算定対象施設にはなりません。加算が算定できている施設と、病棟業務を展開できている回りハと地ケアを合わせても、おそらく全病院の3割にも満たないのではないかでしょうか。

特に、地域で患者さんが入退院を繰り返しているような地域密着型の中小病院などは、なかなか病棟業務が展開できていません。これから先はしっかり業務展開できる体制を日病



薬として構築していく流れになるでしょう。

酒井会長:早速ですが、石井先生からもお願ひします。

石井会頭:武田先生から病棟業務などの対人業務が中心になっているというお話がありました。私からは薬学全般、特に学術的な側面からの話になります。薬自体のモダリティが大きく変化しています。それこそ20年くらい前は低分子中心だったのが、今では高分子タンパク製剤、特に抗体製剤が出てきていますし、COVID-19で話題になったメッセンジャーRNAワクチンという全く新しいメカニズムの薬も出了ました。それに伴い、薬に関する学問の幅が広くなっています。薬学会には10の専門領域を突き詰める支部があり、それぞれのエキスパートが突出した形になっています。実際には、専門性が高くなるということは逆に視界が狭くなるという側面もあります。横串を刺しながら次の創薬の展開を考えることが必要な時期にさしかかってきました。

また、学術的な問題としては、薬学部が増え、学生が研究を行う時間が減少していることが挙げられます。本来は、薬学部に入ると一度くらいは薬学会で研究発表してから卒業するという風潮がありましたが、学間にふれないまま薬剤師になってしまふケースが増えていることを否定できません。段々と二極化してしまっているのが現状です。これだけ難しい薬がどんどん出てきて、なおかつ本来そこにあるべき専門性を理解しないまま、国家試験のことだけをかじって薬剤師になってしまふと、近未来的な新しいメカニズムの薬についていける薬剤師を本当に輩出できるのだろうか、ということが一つの大きな問題になっています。

先日、ドイツ薬学会に出席しました。創薬のデザインの段階からSDGsの考え方方が入っているんですね。例えば、プラスティックバッグをなるべく捨てないようにしようと、リサイクルしようという取り組みは日本でも一般的になりました。彼ら(欧州)が次にやっていることは、薬のデザインから始まっています。例えば、新しい抗生素質を創出する際、そのまま下水に流れてしまうと耐性菌が生まれてしまいますね。そうならないように、代謝して耐性を持たないデザインを求めるという、そこまで議論が進んでいました。SDGsの考え方や工業廃水などを考慮した議論が行われていました。日本はいくら島国だと言っても環境汚染の問題がありますので、創薬もそこまで考えないと

いけない時代になってきたな、ということが私の情報の中では今一番目新しいところです。

武田会長:なるほど。モダリティの多様性だけではなくて、その先ですね。サステナビリティまで考えた上での創薬ということですね。素晴らしい。

病院薬剤師業務と薬学研究が与え合う影響 プロフェッショナリズム

酒井会長:武田先生のお話を受けて、石井先生はどのようにお考えでしょうか。病院薬剤師業務がこの通り多様化てきて、それが学生さんや薬学研究にどのような影響を与えているとお考えでしょうか。

石井会頭:実は私は大きな変化があると思っています。かつての薬学部が研究をする時には医師と共同研究するとか、そのくらいしか医療に関する情報源がなかったのです。今ではベッドサイドや在宅に伺う薬剤師がいるので、課題がそこから大きく見えてくるケースがとても増えています。特に最近では複雑な薬が多く出ていますので分からぬことだらけです。実際にベッドサイドに行って疑問を持ち帰り、それを解決して学位を取るというケースも散見されます。そういったことを薬学にフィードバックできれば共同研究につながりますので、研究のあり方が大きく変わってくると思います。

また、武田先生が繰り返しおっしゃっています「薬物治療」ですが、究極の医療は薬物治療の個別化です。薬剤師たちは「個」をベッドサイドで見ることになります。そうすると、個が複数になれば疫学とまではいかなくとも、統計的なものになります。そこからまた新たな情報・課題が得られて、薬学研究の質は変わってくる部分があります。

当然従来通りの研究もあり、病院だったらベッドサイド、薬局だったら在宅という現場になると、課題の引っ張り出しができる薬剤師が情報源になっていくことがあります。そういった意味では変化していると思います。細かいケアという意味で薬剤師は情報を取りやすくなっています。

酒井会長:石井先生がおっしゃる薬学研究の発展や多様化は、武田先生が考える病院薬剤師の職能拡大に対してどのように貢献できるでしょうか?

武田会長:薬学研究が進むことで創薬もモダ



リティが多様化しているということもありますし、個別化もどんどん進んでいます。つまり、医薬品が多様化していく中でその患者さんに対する医薬品の選択は個別化してきています。それがこれからの医療の流れになりますので、様々な情報収集をして患者さんに適切な薬物治療を設計していくことになります。薬剤師が薬の情報をしっかりと把握し医師とともに薬物治療設計を考え、そしてまた、患者さんに情報提供し希望を伺うことによって患者さんと一緒に薬物治療を創っていく、そういう職能が必要になってくるのでしょうか。そういう点で薬学研究が進み、同時に病棟で患者さんの状態を把握することによって薬に対するプロフェッショナリズムがどんどん進んでいきます。

酒井会長:プロフェッショナリズムの教育はしっかり行われていますよね。

石井会頭:はい。今度のコア・カリにも入りました。そうしないと、もう医師とか看護師のフィールドでは伍していけないと思われます。医師の場合は「内科のプロフェッショナリズムとは」「総合医のプロフェッショナリズムとは」このような形で細分化されています。また、クリニックとか民間や大病院で何が求められているのかという教育がずっと行われてきました。ナースも同様です。薬学だけが入っていませんでした。私はたまたまコア・カリの仕事に関わりましたので、薬学も入れてくれということで関係者を説得しました。薬学にはじみがなかった部分でしたが、薬学教育におけるコア・カリにおいてもプロフェッショナリズムを明記していただきました。

プロフェッショナリズムについてですが、語源として「公約」という意味のプロフェスという言葉があります。公(おおやけ)に約束するということです。我々専門職の立場は「皆様に良いことをしますよ。そのかわり自ら律しながら(自律)、自己判断で物事を進めて良いです



よ」というものです。医師や薬剤師のように國家ライセンスを持つ人たちは特別な訓練を受けていて、その訓練の成果を利他的に相手に与えることを公約しています。それがプロフェッショナルです。そして、その根底にある考え方を指すものがプロフェッショナリズムです。実際に薬学で考えてみると、私たちは患者さんに何ができるのか、あるいは、適切な薬物治療が提供できるとか、具体的に細かく落とし込んでいくとそういうことになると思います。患者さんが良くなるように自分たちの力を薬のプロとして提供する姿勢が根底にあります。

先日の日本在宅薬学会学術大会(2025年7月20日・21日)で、シンポジウム「薬剤師のプロフェッショナリズム」に参加しました。プロフェッショナリズムはどうしたら身に付いていくのかというテーマで次のとおりお話ししました。

話を聞くだけではなくトレーニングが必要です。やはりキャリアのある人のほうが広い視野で幅広いプロフェッショナリズムが身に付きます。始めたばかりの人にとっては「調剤が間違いなくできる」「医薬品の管理が間違いなくできる」などになります。病院薬剤師であれば「病院全体の薬を管理しながら供給を途絶えさせることなく患者さんに個別化医療ができる」などになります。それを常にフィードバックしながら、何が大事かというと常にリフレクション(省察)をするということです。何か出来事があった時にきちんと反省して、何が駄目だったのか、どうしたら良かったのかと考えることを繰り返していくことによって、その人のプロフェッショナリズムという力が上がっていくというものです。色々な職種に置き換えても同じことだと思います。

酒井会長:企業人として社員に求めるところもそこです。ちゃんと自分で考えてくださいということです。そのためにみんなどう協力してい

けるの、みんなのために何ができるのか突き詰めていこうよ、社会のためにどんな物を創つたらいいの、これを考え続けないといけません。先生がおっしゃったことは企業にも当てはまると思います。

日本の医療・薬学が抱える課題

協会の関わり

酒井会長:それではここからは、改めてお二人にご意見を交わしていただきたいと存じます。現在の日本の医療・薬学が抱える課題は何だとお考えでしょうか。

武田会長:これから先DXと言われていますが、どのような医療提供体制や介護提供体制が生まれるのか、それに対して薬剤師としては、職能のあり方がどう変わるのが、日病薬はどう対応していくべきか、それが課題と言えれば課題です。特に、新たな地域医療構想の中では、都会では急性期医療を中心とする「治す医療」と、地域で高齢者救急とか回りハガ一体化していくような「支える医療」など、医療提供体制や機能が状況に応じて多様化していく中で、薬剤師としての役割も多様化していきます。もしも多様化するのなら日病薬としてどう対応していくべきか。これら(多様化する状況)について柔軟に対応していくことを理解しています。現実問題としては、シームレスな薬物治療管理を地域でつなげて提供していくうえで、薬局薬剤師と病院薬剤師のアンバランス(偏在)を是正することが一番大きな課題なのかなと思います。

酒井会長:ここまでお話を伺って、病院薬剤師は「業務の効率化」や「対人業務へのシフト」といった課題に直面していることを理解しました。協会には、分包機や鑑査システム、調剤ロボットなどの最新機器に加えて分析機器などを扱う企業が所属しております。日々、ソリューションを臨床現場の先生方に提供できるよう取り組んでいますが、協会や所属企業に求めることができます。ございましたら、お話ししただければ幸いです。

武田会長:結局人材不足というか、病院薬剤師は特に不足しているので、業務の効率化を図るという点では、本当に薬科機器の導入というのは非常にありがたいし、そうやって業務を効率化してきたことは間違いないと思います。もちろん効率化だけではなくて、医療安全の観点からも非常に大事な、機器導入、デ

ジタル化というふうに考えています。協会所属の機器メーカーの皆様には、医療現場でどのようなニーズがあるのか常にリサーチされて、私たちの要望に応えていただくような形で薬科機器の開発を進めてきていただいたことにありがたいと感じています。今からDXがどんどん進展していく状況で、地域において全ての情報が一元管理されていくようなインターフェースやプラットフォームの構築が必要になります。これからどんな機器が、どんなデジタル技術が、薬剤業務の中に入り込んでくるのか、加わってくるのか、まだ分かりません。ひとつ現状で言うなら、色々な機器を接続させようとすると、それぞれが独自のシステムを持っている状況があります。

酒井会長:はい。各社独自対応が主流でした。

武田会長:以前からお願いしているとおり、そこをできれば統一してほしいです。色々な機器が同じインターフェースの中にぶら下がるような対応をお願いします。薬剤部の中で薬を調剤しますと、例えば入院患者さんであれば病棟、それから外来の窓口など、必要な患者さんのもとに薬が届きます。しかし、そこでは薬剤師が薬を提供しているのではなく、看護師が提供しています。せっかく医薬品もバーコード管理ができますから、どれだけ正確に患者さんに届けて、患者さんが服用されたのか、そういった情報が一本でつながっている形が望ましいです。それが将来クラウド型のパーソナル・ヘルス・レコード(PHR)という形で集合されていく、地域全体でシームレスに薬物治療の管理がつながっていく、情報の管理がつながるということになっていくと思います。

石井会頭:その時に独自のものになってしまふより、今後は標準化したものをきちんとつなげるようにしないと、電子化は一向に進まないですよね。電子カルテのベンダーと話したのですが、その企業なりにデータをフィックスしていらっしゃる。データを取り出す際にそれを解除しないとできません。解除するだけでも何億円という費用になっているのですが、データは本来患者さんのものであり医療機関のものじゃないですか。彼らは「我々のデータ」という表現をします。ありえないですよね。医療情報なので元々は患者さんのものですよ、ということが全く理解されていません。

副作用報告をして、きちんと開示してくれる会社と、「これは私たちのデータです」とするとこ

ろもあります。いや、違うでしょ！ 色々副作用イベントが起きて、病院から報告をしたときにオープンに医療機関にフィードバックしてくれる製薬会社もあれば、一方で「これは我々のデータなので」とすぐに言う会社もありますよね。そのような認識の違いが存在しています。

酒井会長:他方で、薬学会においては「研究者の育成」や「多様な研究分野の連携」といったことに取り組んでおられると思います。こうした面からも協会は協力できるのではないかと考えておりますが、先生方の目から見てどのようなコラボレーションに期待をされていますか。企業としてアカデミアの先生方に何か協力できることはあるのでしょうか。あるとしたらどういった形で進められるでしょうか。

石井会頭:企業は学生にとって就職先のひとつでもあります。全員が医療機関に就職するわけではなく、企業の研究所に就職する例もあります。かつやはり、企業の展示は学生にとって重要なと。一番新しいものを展示してくださいますよね。やはり最新のトレンドや情報が得られることは重要なとと思います。展示会を充実させていただくことが非常に重要なと考えています。

酒井会長:展示会においてどんな取り組みをさらに期待されていますか。また、どのような分野の企業に参加してほしいと思われますか。

武田会長:メーカーさんには薬剤業務の展開が進んでいくような機器類を開発していただいている。ヒアリングに行くのは大学病院だったり、割と大きな急性期病院だったりでしょう。そこには今まで機器が導入されており、さらに負担軽減につながるような機械が欲しいという形で、コラボレーションされているケースがほとんどだと思います。しかし、むしろ中小病院に着目してほしいなど希望します。病院の軒数としては中小病院がとても多いので、そこで汎用性の高い機器が作れたら導入がさらに進むのではないかと逆に想像でき

ます。できれば中小病院のデジタル化、機械化に向けて耳を傾けていただければなというのが一点あります。先ほどもお話ししましたが、中小病院でも購入しやすい電子カルテやオーダリングシステムを考えていただいたらというのもあります。展示会でご提供いただいたり、ブースの中で相談窓口のようなものを開設いただいたり、そういった点で機器メーカーとつないでほしいですね。アクセス先が分からいる人も結構いますから、そういう機会を作っていただくのもひとつかなと。

石井会頭:私自身は医療機器、生成AI、DX含めて全部進める派です。ずっとそうでした。どんどん取り入れたほうが良いと考えています。今のところ取り入れられなくても、10年ぐらい経てば何かできるようになる可能性も出てきます。ただ、その10年後もメーカーはきちんとそこに向いてくれますか？ というのが武田先生のご指摘なので、そういう流れを作っていくかといけないなと思います。

終わりに

酒井会長:そろそろお時間的にも90分が経過しました。本日はお二方の先生を招いてご対談いただきました。進行役として同席させていただき、大変貴重なお話を伺うことができました。前半では先生方を取り巻く現状を分かりやすくご教示いただき、後半では協会に対してリクエストもいただいたように感じています。最後になりますが、お二方からもう一言ずつお言葉をいただければ幸いです。では、武田先生から。何か言い残したことございましたら。

武田会長:いいえ、言い残したことはもうないですよ(笑)

繰り返しになるかもしれません、我々の業務効率化のため、医療安全向上のために協会の皆様には本当にご協力いただいています。特に、私が会長になってからは酒井会長とよくお話しもさせていただき情報収集も色々してくださって、本当にありがたく思っております。これから本当にAIの活用であったりDXの進展であったりということで、一体どんな機器、どんなデジタル化が進んでいくのかは、正直なところ分かりません。しかし、我々の視点としては最終的には患者さんに適切な薬物治療を届けていく、提供していく、そのためには必要な医薬品を過不足なくきちんと提供できる体制を作ることが、薬物治療管理に対する

まさにプロフェッショナルとしての役割だと思っています。どんな時代になっても、機器導入やデジタル化が進んだとしても、プロフェッショナルとしての役割だけはきちんと担保されていくと思いますし、担保していかないといけません。そこに至るプロセスについては協会の皆様と協力しながら、効率化と医療安全向上ということで進んで、これからも一緒にやっていっていただければと思います。最後にお願いをして終わりたいと思います。ありがとうございました。

酒井会長:ぜひ今後もご指導ください。石井先生も一言お願いします。

石井会頭:はい。今日はこのような機会を作っていただき誠にありがとうございました。もちろん武田先生とは常に対話をしているわけですが、このように課題やテーマを提示していいだけで、それをきちんと言語化してお互いに表現できたことは、私にとっても非常に重要な機会でございました。改めて御礼申し上げます。臨床現場と薬学会のあるアカデミアの部分は切っても切り離せません。アカデミアの展開が進まなければ、医療現場の質も上がりませんし、一方で、医療現場の質が上がらなければ、アカデミアの展開も進んでいかないことも事実です。薬学会の場合は大学生や大学院生をいっぱい抱えております。そういった人たちが色々な形で社会に出ると思いますが、薬学の一員として医療現場で働いてくれたら良いなと希望します。活躍できるようなといった場に私はしたいと思いますし、そのためにはお互い日病薬と薬学会が常に情報交換をしていかなければいけないかなと思いました。ですので今日はとても有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

酒井会長:日病薬と薬学会に加えて、協会のような産業の分野からもお手伝いできることがあれば、もちろん参画したいです。本音ベースのお話を伺ってそれをどうやって会員に伝えていくのか、大きな宿題と感じました。あとは展示会の活性化ですね。両先生にはご多用のなか、本日は誠にありがとうございました。日頃より、先生方へのエールを送っているつもりでおりましたが、かえって多大な激励をいただいたような気がいたします。両先生のご健勝を祈り、対談を閉じたいと思います。ありがとうございました。



New

横型自動錠剤包装機： ATC-172KC-PJ

このたび開発したATC-172KCは独自の横型スタイルを継承した、業界でも珍しいデザインの自動錠剤包装機です。横型スタイルの特長を活かした省スペース設計により、専用の作業台やPCラックを必要としません。高さ約1mで作業しやすい天面は、作業台やPCの設置場所として自由に活用できます。分包中の錠剤補充が可能な設計によって、処方量の多い病院・薬局での作業効率向上にも貢献します。

【外形寸法】
W1,192×D621×H1,088mm



PHC株式会社 バイオメディカ事業部 薬局システム営業所

〒105-8433 東京都港区西新橋2丁目38番5号
TEL : 03-5408-7276 FAX : 03-5408-0874
URL : <https://www.phchd.com/jp/biomedical/>

New

多孔質プレフィルター Poro Filter PET-30

溶出試験のサンプリングにおいて、崩壊粒や異物を除去し、二次溶出や流路詰まりを防ぐ多孔質プレフィルター「Poro Filter™シリーズ」に、新たに「Poro Filter PET-30」をラインナップしました。ポリエチル樹脂(PET)を多孔質フィルター化した国内初の製品で、最も普及している繊維充填タイプのフィルターと材質・ろ過性能において高い互換性を確保つつ、32倍のろ過面積による目詰まり防止を実現しています。

従来品の超高分子量ポリエチレン製(Poro Filter 20/30)と併せ、製剤に応じて幅広くご選択いただけます。



富山産業株式会社

〒559-0034 大阪市住之江区南港北1丁目19-31
TEL : 06-6625-8544 FAX : 06-6625-8548
URL : <https://www.toyamas.co.jp/>

New

計量カップ 薬杯2号(20cc)青目盛

目盛りは青い線で印刷加工した見やすいタイプ。目盛りを1cc・2.5cc(従来品)から0.5ccピッチに一新。より少量の計量ができるよう生まれ変わりました。滅菌済・少數包装販売できます。



エムアイケミカル(株)

〒664-0001 兵庫県伊丹市荒牧6丁目7-24
TEL : 072-781-1000 FAX : 072-779-5724
URL : <https://www.mi-chemical.com/>

New

KN-CCS-1200 ケージ交換ステーション

スタイリッシュなケージ交換ステーションです。マウス、ラットなど飼育ケージ*を交換する際に使用します。

特徴① 安心の性能

HEPA フィルターと気流制御により、作業面において「ISO3」の清浄度をクリアしています。作業面はSUS304 製で傷つきにくく、耐薬品性を有しています。

特徴② 誰でも使いやすい

作業者の身長に合わせて、作業面の高さを調整できる「電動昇降機能」付。小柄な方も作業がしやすい設計です。

*NATSUME RATは3Rsの発想から生まれた、初学者用のラットへの基本手技を訓練するためのシリコーン製モデルです。



動物実験の3Rとは
Replacement (代替) - 対象を使わない方法へ
Reduction (縮小) - 使用する動物を必要な量へ
Refinement (完熟) - 対象の苦痛・ストレスを最小限に

*ラットケージ(+NATSUME RAT)

株式会社夏目製作所

〒113-8551 東京都文京区湯島2-18-6
TEL : 03-3813-3251 FAX : 03-3815-2002
URL : <https://www.nazme.co.jp/>



New

鑑査支援機能付き全自動錠剤分包機 PROUD-iII(プラウドアイ2)

PROUD-iIIは1台で錠剤分包機と一包化錠剤鑑査支援装置のパフォーマンスを発揮します。薬品を高性能カメラで分包前に直接撮影し、刻印や色調、形状、直径を分析。その結果を見やすい鑑査支援画面にて確認できるため、鑑査業務にかかる負担を軽減することができます。PROUD-iIIは識別率95%以上の「刻印判別機能」を搭載。薬品を高い精度で判別し、間違いは色を分けて表示します。また、色の濃い薬品や薄い刻印で文字が見えにくい場合でも、画面上で刻印・文字の強調表示が可能です。

※識別率は当社規定の方法による測定。



株式会社湯山製作所

〒561-0841 大阪府豊中市名神口1丁目4番30号
TEL : 06-6868-5155 FAX : 06-6868-5154
URL : <https://www.yuyama.co.jp>

New

全自动秤量散薬分包機 Elen-01 -エレンゼロワン-

●散薬の秤量・配分・分包をフルオートメーション化

手間のかかる散薬の調剤業務を自動化した『Elen-01』。人的な調剤作業の削減によって創出した時間を患者さまの対応に充てるなど、タスクシフトに貢献します。



株式会社トーショー

〒144-0033 東京都大田区東糀谷3-8-8
TEL : 03-3745-1331
URL : <https://toshoco.com>

最近の話題

河北総合病院を訪問しました

8月27日に河北総合病院を訪問しました。JR阿佐ヶ谷駅から徒歩約3分ほどの立地です(写真1)。原澤秀樹先生(薬剤部長 兼 医療技術部長)ならびに高畠啓輔先生(薬剤部 副部長)にご対応いただきました(写真2)。

薬剤部長室でお二人にご挨拶をしたのち、高畠先生のご案内で院内を見学させていただきました。日光をたくさん取り入れるスタイルのコリドーにはカフェも併設されており、憩いの場としての雰囲気が実感できました。さらに壁一面にブックラックがしつらえてあり、これまで持っていた病院のイメージがぐつがえりました(写真3)。患者さんやそのご家族もリラックスして過ごされることでしょう。

薬剤部では、機械を実際に使っている様子を見ることができ(写真4)、お薬相談室も見学させていただきました。非常に有意義な訪問となりました。

河北総合病院の新築移転は阿佐ヶ谷の街全体の再開発の一環として行われました。近隣には今後も小学校や商業施設などが集まってきたので、地域密着型の医療機関としての存在感をますます高めていくことと思います。

【事務局より】当会の訪問を受け入れてくださる医療機関様がございましたら、事務局までぜひご連絡をください。



(写真1) 河北総合病院 外観



(写真2) 左から当会・酒井会長、原澤薬剤部長、高畠副部長



(写真3) コリドーのブックラック



(写真4) 陰圧アイソレーター

事業報告

第84回九州山口薬学大会【付設】

会 場: 佐賀市文化会館
開 催 日: 2025年9月14日(日)~15日(月・祝)
出展社数: 13社
小 間 数: 34小間
登録者数: 2,075名



佛坂浩大会実行委員長(右から2番目)

出展社一覧

番号	会社名	小間数
1	エムアイケミカル(株)	1
2	(株)クカメディカル	1
3	サカセ化学工業(株)	1
4	(株)シンキー	1
5	大同化工(株)	1
6	(株)タカゾノ	9
7	(株)トーショー	6
8	日科ミクロン(株)	1
9	PHC(株)	2
10	富士フィルムメディカル(株)	2
11	(株)メディング	1
12	(株)メルシー	2
13	(株)湯山製作所	6
		34小間



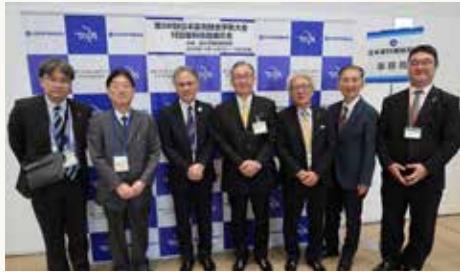
参加受付周辺



機器展示の様子

第58回日本薬剤師会学術大会【付設】

会 場: 国立京都国際会館
開 催 日: 2025年10月12日(日)~13日(月・祝)
出展社数: 22社
小 間 数: 29小間+285m²
登録者数: 8,439名



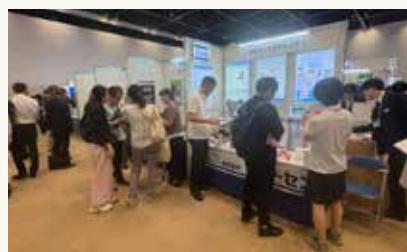
河上英治大会運営委員長(左から2番目)



会場入口



展示会場の様子



展示会場の様子

出展社一覧

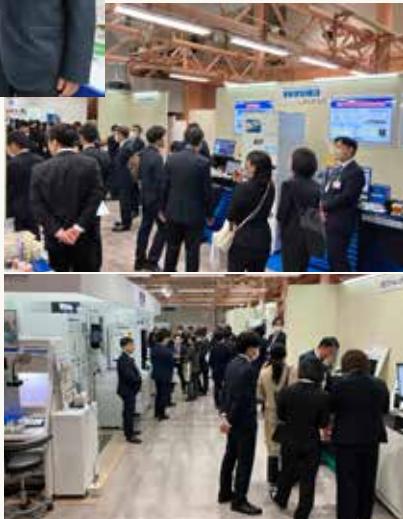
番号	会社名	小間数
1	(株)イトーキ	5
2	馬野化学容器(株)	1
3	エムアイケミカル(株)	2
4	(株)クカメディカル	60.0m ²
5	(株)コンテック	1
6	(株)シンキー	2
7	(株)シンリョウ	1
8	大同化工(株)	2
9	(株)タカゾノ	60.0m ²
10	(株)トーショー	40.0m ²
11	中洲電機(株)	1
12	日科ミクロン(株)	3
13	(株)日本化医器械製作所	1
14	日本ベクトン・ディッキンソン(株)	30.0m ²
15	(株)ビートセンシング	1
16	(株)VIP グローバル	2
17	VMI Holland BV(申込:平泉洋行)	1
18	富士フィルムメディカル(株)	45.0m ²
19	(株)メディング	1
20	(株)メルシー	4
21	(株)湯山製作所	50.0m ²
22	(株)リバイバルドラッグ	1
		29小間+285m ²

第64回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会【付設】

会 場：徳島大学 蔵本キャンパス
開 催 日：2025年11月8日(土)～9日(日)
出 展 社 数：10社
小 間 数：18小間
大会参加者数：941名



石澤啓介実行委員長(写真中央)



出展社一覧

番号	会社名	小間数
1	(株)アスティス、(株)サンキ	2
2	エムアイケミカル(株)	1
3	個別化医療・医薬品トレーサビリティ協議会	1
4	サカセ化学工業(株)	1
5	(株)シンキー	1
6	(株)タカゾノ	2
7	(株)トーショー	4
8	日科ミクロン(株)	1
9	富士フィルムメディカル(株)	2
10	(株)湯山製作所	3
		18小間

展示会場入口

展示会場の様子

精密洗浄・滅菌済み RACOON ステリ・バイアル / ステリ・アンプル



精密洗浄
純水洗浄

スピーディー
開封後すぐ注入

滅菌済み

バイアル/アンプル
乾熱滅菌 180°C
ゴム栓・キャップ
高圧蒸気滅菌 121°C

経済的

	2	5	10	20	30	50	100	仕様
バイアル	—							低アルカリ瓶(5~30ml) ブチル/テフロン/シリコンゴム栓 フリップ/アルミキャップ付
アンプル						5本入	—	透明又は茶

トレイ 10本入

製造販売元
三田理化工業株式会社

本社 〒531-0076 大阪市北区大淀中2-8-2
TEL 06-6458-0971 FAX 06-6458-2393
東京営業所 〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-13-102
TEL 03-3812-5371 FAX 03-3812-5041
URL: <http://www.racoon.co.jp>



事業報告

第35回日本医療薬学会年会【併催】

会 場: 神戸国際展示場
開 催 日: 2025年11月22日(土)~24日(月・祝)
出展社数: 19社
小間数: 92小間
登録者数: 約10,740名

出展社一覧

番号	会社名	小間数
1	馬野化学容器(株)	1
2	エムアイケミカル(株)	1
3	(株)クカメディカル	1
4	小西医療器(株)	2
5	サカセ化学工業(株)	3
6	(株)タカゾノ	7
7	東レ・メディカル(株)	2
8	(株)トーショー	8
9	日科ミクロン(株)	2
10	(株)日本医化器械製作所	2
11	日本ベクトン・ディッキンソン(株)	2
12	(一財)日本医薬情報センター	1
13	PHC(株)	15
14	(株)日立ハイテク／(株)日立ハイテクアナリシス	2
15	株式会社ビートセシング	1
16	富士フイルムメディカル(株)	16
17	(株)未在ADシステムズ	1
18	三田理化工業(株)	1
19	(株)湯山製作所	24
		92小間



打合せ

ワークショップ 開催一覧

番号	会社名	発表タイトル
1	(株)日立ハイテク／(株)日立ハイテクアナリシス	LM1010ハンズオンセミナー
2	(株)日立ハイテク／(株)日立ハイテクアナリシス	LM1010ハンズオンセミナー
3	(株)日立ハイテク／(株)日立ハイテクアナリシス	LM1010ハンズオンセミナー
4	(株)日立ハイテク／(株)日立ハイテクアナリシス	LM1010ハンズオンセミナー
5	(株)湯山製作所	感染症に挑む病棟薬剤師をフォローする情報とシステム

セミナー 開催一覧

番号	会社名	発表タイトル
1	サカセ化学工業(株)	注射薬カート搬送の新提案！自律走行ロボット【PoBOT】(大成建設)



矢野育子年会長(写真中央)



展示会場の様子



ワークショップの様子



セミナーの様子

ワークショップの様子

事務局報告

お知らせします

会員会社本社移転

すみれ分包機(株)

すみれ分包機(株)は令和7年9月25日より本社を移転し工場と統合いたしました。

新住所：〒359-0002 埼玉県所沢市中富752-5

新TEL：04-2968-6045

新FAX：04-2968-6046

諸会議報告 令和7年8月度～11月度

理事会

令和7年9月度理事会

日 時：令和7年9月11日(木)15:00～17:05

場 所：WEB会議

出席者：酒井会長、千種副会長、湯山・池上・

園部理事、事務局・東海林、飯塚

議 事：1.事務局の体制について

2.安全委員会について

3.展示会関係

4.日本薬学会第146年会における

取り交わしの件

5.日本病院薬剤師会への協力活動の件

6.その他

総務会

令和7年9月度総務会

日 時：令和7年9月11日(木)13:00～14:25

場 所：WEB会議

出席者：酒井会長、千種副会長、事務局・東海林、
飯塚

議 事：1.事務局の体制について

2.安全委員会について

3.展示会関係

4.日本薬学会第146年会における

取り交わしの件

5.日本病院薬剤師会への協力活動の件

6.その他

広報委員会

令和7年9月度広報委員会

日 時：令和7年9月25日(木)14:00～15:35

場 所：WEB会議

出席者：酒井会長、湯山理事、湯山製作所・森氏、

上野氏、レイ・クリエーション・三浦氏、

益田氏、事務局・東海林、飯塚

議 事：1.やげんNo.59(9月号)総括

2.やげんNo.60(1月号)の提案について

3.日本病院薬剤師会との取り組み

4.分科会報告(HP改訂、SNS活用)

5.やげんメール配信について

6.日本薬科機器協会のメール配信改善

7.やげんエッセイのアーカイブの拡大と

別刷りについて

8.その他

令和7年11月度広報委員会

日 時：令和7年11月11日(火)14:00～15:15

場 所：WEB会議

出席者：酒井会長、千種副会長、湯山理事、湯山
製作所・森氏、上野氏、レイ・クリエーション・

三浦氏、益田氏、有田氏、城山氏、事務局・

東海林、飯塚

議 事：1.やげんNo.60(1月号)対談記事について

2.日本病院薬剤師会との取り組み

3.やげんエッセイのアーカイブの拡大と

別刷りについて

4.HPトップページ改良の件

5.その他

事務局日誌

令和7年8月度報告

- 8月 1日(金) 酒井会長、園部理事、東海林事務局長、飯塚事務局員、つくば出張
日本病院薬剤師会関東ブロック第55回学術大会付設薬科機器展示会(つくば、8月2日・3日開催)
- 8月 5日(火) 東海林事務局長、JAHIS(宮島氏)訪問
- 8月27日(水) 酒井会長、飯塚事務局員、上野広報委員、河北総合病院訪問
- 8月28日(木) 広報委員会分科会WG

令和7年9月度報告

- 9月 1日(月) 日病薬・松久事務局長、東海林事務局長、飯塚事務局員(動画制作打合せ)(日本病院薬剤師会)
- 9月 2日(火) 千種副会長、東海林事務局長、第35回日本医療薬学会年会(神戸)会場観察
- 9月 3日(水) 酒井会長、東海林事務局長、聖路加国際病院訪問(動画制作打合せ)
- 9月10日(水) 池上理事、東海林事務局長、第64回中国四国支部学術大会(徳島大学蔵本キャンパス)視察
- 9月11日(木) 千種副会長来局
9月度総務会、理事会(WEB)
- 9月12日(金) 日病薬・松久事務局長、東海林事務局長、飯塚事務局員(対談及び動画制作打合せ)(日本病院薬剤師会)
- 9月13日(土) 酒井会長、池上理事、東海林事務局長、飯塚事務局員、佐賀出張
第84回九州山口薬学会大会付設薬科機器展示会(佐賀、9月14日・15日開催)
- 9月24日(水) 酒井会長来局(上野広報委員レクチャー)
- 9月25日(木) 9月度広報委員会(WEB)

令和7年10月度報告

- 10月 6日(月) 東海林事務局長、上野広報委員、聖路加国際病院訪問(動画制作)
- 10月 7日(火) 厚生労働省医政局打合せ(WEB)
- 10月 8日(水) 酒井会長来局
やげん60号企画対談(日本病院薬剤師会)
- 10月11日(土) 酒井会長、園部理事、東海林事務局長、飯塚事務局員、京都出張
第58回日本薬剤師会学術大会付設薬科機器展示会(京都、10月12日・13日開催)
- 10月15日(水) 東海林事務局長、第85回九州山口薬学会会場視察(宮崎)
- 10月16日(木) 第1回安全委員会ワーキンググループ(WEB)
- 10月18日(土) 酒井会長、日本病院薬剤師会70周年記念式典出席
- 10月22日(水) 東海林事務局長大阪出張(友好団体企画委員会出席)

令和7年11月度報告

- 11月 7日(金) 酒井会長、池上理事、東海林事務局長、徳島出張
第64回中国四国支部学術大会付設薬科機器展示会(徳島、11月8日・9日開催)
- 11月11日(火) 11月度広報委員会(WEB)
- 11月20日(木) 第2回安全委員会ワーキンググループ(WEB)
- 11月21日(金) 酒井会長、千種副会長、湯山理事、池上理事、東海林事務局長、飯塚事務局員、神戸出張
第35回日本医療薬学会年会併催薬科機器展示会(神戸、11月22日~24日開催)
- 11月27日(木) 酒井会長、千種副会長、東海林事務局長、科学機器協会80周年記念祝賀会出席

編集後記

本号を手に取られた皆さまは、きっとその“厚み”にお気づきになったことでしょう。そう、今回は通常より4ページ増量し、内容をぎゅっと詰め込んだ特別号です。

なかでも目玉は「新春スペシャル対談」。新装やげんにとって初めての対談企画であり、準備から取材まで日本病院薬剤師会様の監修とご指導

のもと、事務局、広報委員一同が全力で臨みました。現場での学びや気づきは大きく、誌面に凝縮された熱量は必ずや皆さまに伝わるはずです。

この一歩を契機に、会員の皆さま、そして薬剤師の皆さまにとって“読むたびに役立つ”“次号が待ち遠しくなる”誌面づくりを目指してまいります。どうぞご期待ください。



オンラインリクエストBOX

日本薬科機器協会は会員企業と先生方との架け橋として、薬科機器分野に貢献してまいります。
日ごろお使いの機器への疑問、要望、困っていること、こんなものがあったら…、こんなものが欲しい…など、
ご要望をおよせ下さい。スマホなどから右記のQRコードを読み取っていただきご記入いただけます。
いただいたリクエストを会員企業にフィードバックし、製品開発に繋げてまいります。

薬科機器通信「やげん」1月号

発行: 2026年1月10日

発行者: 日本薬科機器協会 酒井 哲嗣

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15(日本薬学会長井記念館3F)

TEL (03) 3407-8831 FAX (03) 3407-9557

URL: <http://www.nyk.gr.jp> メール: info@nyk.gr.jp

編集協力: 上野 敬人

編集/印刷: 株式会社レイ・クリエーション

 **日本薬科機器協会**
JAPAN PHARMACEUTICAL EQUIPMENT & MACHINERY ASSOCIATION





Era-Beru(エラ・ベル)シリーズは、
小児科・産科で働く方たちのお悩みの声から生まれた
外装ボードを環境や空間に合わせてデザインした商品です。
もちろんデザイン性に優れているだけではなく、
耐薬品性など医療安全面にもしっかりと配慮しているので、
安心してお使いいただけます。



エラ・ベル
Era-Beruシリーズ



オーダーメイドのデザインオプションサービスで、
医療用カートをお好みのデザインに。



3 サカセの つの想い



- 治療を頑張っている子どもたちの心を、明るく元気にしたい。
- 毎日、病室に足を運ぶご家族の不安な気持ちを、少しでも和らげたい。
- 医療に携わっている方たちの職場環境を、さらに温もりのある空間にしたい。

健やかさの追求と未来の創造

すべての方の願いである健康のために
さまざまな変化に対応して
価値あるサービスや商品を
ベストを尽くして提供していくこと。
そのためにタカゾノは存在しています。



最新モデル

一包化から監査まで、この1台で完結

全自動錠剤包装機

錠剤監査支援装置

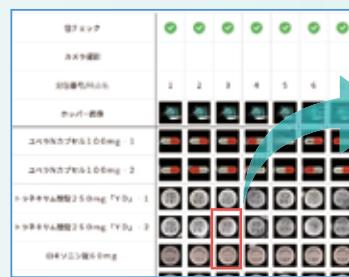
Eser × Pre-VIEW

製品紹介動画は
こちらから→



全自動錠剤包装機Eserに、錠剤監査支援装置『Pre-VIEW(プレビュー)』
が新たに加わりました。
高精度カメラとAIが薬剤を瞬時に識別し、担当者の心理的不安が
大きかった一包化監査業務までをサポート。
「一包化×監査機能」を備えたEserが、「安心かつ効率的に」その
先にある「患者さまの笑顔」へと導きます。

大きさ・色に加え刻印も照合可能



高精度のカメラを内蔵した撮像モ
ジュールは、薬剤の大きさや色だけ
でなく、刻印まで見逃さずに撮影。
その画像をもとにAIが照合・識別を
を行い、種類と数を識別します。

両面撮影で薬剤を見逃さず識別



高精度カメラは、ターンテーブル
上部と下部の2箇所に配置。表面・
裏面で薬剤を撮影し、同時に印字・
刻印の照合・識別処理を行います。
また、識別された薬剤は、表裏や
上下がそろえられた状態でPCに
表示されます。

株式会社 タカゾノ

〈URL〉 <https://www.takazono.co.jp>

営業本部 〒104-0054 東京都中央区勝どき3丁目12番1号 FOREFRONT TOWER 6階 TEL 03(3533)2130

営業所／札幌・釧路・旭川・青森・盛岡・仙台・秋田・郡山・北関東・宇都宮・前橋・さいたま・千葉・東京・多摩・横浜・新潟・金沢・長野・静岡・
名古屋・京都・大阪・神戸・岡山・広島・山口・高松・松山・北九州・福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

東京本社 〒104-0054 東京都中央区勝どき3丁目12番1号 FOREFRONT TOWER 6階 TEL 03(3533)2110 (代)

大阪本社 〒571-0038 大阪府門真市柳田町4番17号

TEL 06(6903)2000 (代)